

西アフリカにおけるエボラウイルスの流行を契機に、国内でも海外渡航歴のある症例の診療、検査部門との連携、検査体制、職業安全に関心が高まっています。

本研修では、今回の流行による日本の医療機関の経験を共有し、第一種感染症指定医療機関およびプライマリケアにおける感染症の検査の課題を学びます。

開催日:平成27年2月14日(土)～15日(日)

会場: 1日目 国立国際医療研究センター 国際医療協力研修センター5階 大会議室

2日目 国立感染症研究所 共用第一会議室

※どちらも近くです。

【プログラム】詳細は裏面参照

1日目:受付9:30～ 開始10:00～終了18:00 2日目 開始9:00～15:30

講義・事例検討・グループ討論を行います

【対象】

第一種感染症指定医療機関で、一類感染症対応を担当する検査技師(各施設2名まで)

地方衛生研究所・輸入感染症を多く扱う医療機関の検査技師(若干名)

【定員】

100名

【講習会費】

無料

【宿泊・交通費】

第一種指定医療機関の検査技師1名分は規定の範囲で、研究班が負担をします(別紙参照)
研修中の昼食及は主催者が準備します

【申し込み方法】

国立国際医療研究センター 国際感染症対策室のホームページ(セミナーページ)の専用申し込みページのフォームに記入してお申し込みください。

事務局より当日までの準備や、交通費宿泊費等の事務連絡をさせていただきます。

※第一種指定医療機関の臨床検査技師の申し込み締め切りは1月10日です。

※受験シーズンと重なるため早めの後準備をお願いいたします。

[交流会(任意参加)] 1日目の夜に研修会場近くで夕食を兼ねた交流会を開催します。

費用は自己負担で、会場でお支払ください(3千円前後 詳細別紙)

主催:平成26年度厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業
「一類感染症の患者発生時に備えた治療・診断・感染管理等に関する研究」班 代表 加藤康幸

問い合わせ: 国立国際医療研究センター 国際感染症センター 国際感染症対策室

担当: 牧野・堀

idsupport@hosp.ncgm.go.jp

電話 03-3202-7181(代) ext.4413 / 4483 FAX 03-3202-1012

一類感染症とバイオセーフティ研修会

【プログラム】(予定)

1日目(2月14日) 受付 9:30~

10:00 開会挨拶 加藤康幸

10:05~10:10 オリエンテーション・事務連絡 牧野

10:10~10:30 講義1「一類感染症への備え・取り組み」(20分)

10:30~11:40 講義2「出血熱ウイルスと検査・診断、検体の取り扱い」(70分)
(10分休憩)

11:50~12:20 講義3「患者の移送・検体の輸送の課題」(30分)

12:20~13:10 昼食(50分)

13:10~14:40 事例検討・グループ討議(90分:休憩含む)

事例1: 西アフリカ渡航歴のある発熱・下痢症例

事例2: 西アフリカ渡航歴のある発熱・下痢症例

14:40~15:10 グループ討議内容の共有・質疑(30分)

(10分休憩)

15:20~16:20 講義4「病院検査室のバイオセーフティと職員の安全:最新の話」

(10分休憩)

16:30~18:00 事例紹介と質疑「検査室の整備(ハード)、マニュアル作成や訓練の現状」

※夕食(交流会) 任意参加(自費)です。希望者は申し込みをお願いします

2日目(2月15日)

9:00~10:30 講義5「渡航歴のある患者の診療 最前線」

(10分休憩)

10:40~12:10 講義6「渡航歴のある患者での微生物検査」

12:00~13:00 昼食(50分)

13:00~15:00 事例検討・グループ討議(120分・休憩を含む)

~臨床検査技師・検査室の経験から学ぶ~

事例1: エボラ疑い事例対応

事例2: エボラ疑い事例対応

15:00~15:30 全体 質疑

15:30 閉会

講師(敬称略、予定)

コースリーダー 加藤康幸(国立国際医療研究センター 国際感染症センター)

国立感染症研究所 ウイルス第一部 福士秀悦

東北大学医学部附属病院 臨床検査部 長沢光章

西神戸医療センター 臨床検査技術部 山本 剛

中頭病院 感染症・総合内科 新里 敬

中頭病院 感染症・総合内科 大城雄亮

りんくう総合医療センター 検査科 原 克則

国立国際医療研究センター 中央検査部 永井正樹

国立国際医療研究センター 中央検査部 目崎和久

国立国際医療研究センター 国際感染症センター 藤谷好弘

国立国際医療研究センター 国際感染症センター 篠原 浩